

世界で一番愛していると叫びたい

作詞 J'Soul (浅羽一)

『夢は何ですか?』と聞かれた僕は 『夢って何ですか?』と聞き返していた
『あなたが一番やってみたい事です』と 僕が一番やってみたい事は…そうだ!
世界で一番高い場所から 世界で一番大きな声で
世界で一番遠い場所まで 世界で一番愛していると叫びたい… } ■

『それが夢ですか?』と笑われた僕は 『これが夢です』と真顔で答えたんだ
『…それは素敵な夢ですね』と言われたから 『どうもありがとうございます』と僕は微笑んだ
偽る事に価値などなかった

■繰り返し

…出来れば…雲のない空の下で…

星を数えてた眠れない夜には 瞳を閉じてでもそこに降り立てるよう
空が飛びたくて神様に手紙を書いた 切手が買えなくて出した手紙は置いてかれた
豊かな彼らが指輪を掲げた 貧しい僕には何も無いけど
秘密の丘に一輪だけ咲く 花で僕が作った花束を贈るから… } ●

お祈りはやめた願い事があるときは 髪の毛を売った幸せを探すため
道が暗いなら自分の服に火を付けた 両足が折れたら這いつくばって手探りで道を行った
安らかに眠れる屋根はなかった

●繰り返し

…残らず…僕の全てをあなたに…

目の前の扉全てには鍵がかかっていた 僕のポケットには錆びて刃の欠けたナイフしかなかった
適当に選んだ右から二番目の鍵穴に ナイフを突き立てて僕はゆっくりと回し始めた
錆びた金属が削れる耳障りな音が 僕の何かと一緒にポロポロとこぼれナイフは折れた
引き替えに開いた扉の中には何もなかった だから僕はとりあえず何処かで拾った種を植えた…

『何が咲きました?』と尋ねる旅人に 『これは何ですか?』と僕は緑を指さした
『これは珍しい…これは愛という花の芽です』と 僕の知らない花の名前を旅人が言った
とても枯れやすい花だと言った
やがて咲くだろう花の隣で 心に想い描いた花を抱いて
いつか実るだろう甘い果実 瞼の裏で笑うあなただけに捧げたい…

●繰り返し

■繰り返し

…あなたが何処にいても…愛が届きますように…

…世界で一番愛していると…